

平成〇〇年度 第〇回「無予告」避難訓練実施要項【地震発生時（休み時間中）】

[1] 目的

- ・ 休み時間中に地震が発生した際の対応の方法を理解すると共に、指導者が近くにいない状況でも、落ち着いて避難経路を行動する能力、態度を育成する。(児童)
- ・ 休み時間中における避難を実践する。児童の避難状況、指導者の確認体制、および放送等の防災施設の状況を確認し、今後の防災計画の再検討のための資料とする。(教師)

※緊急地震速報に対応するため、全児童・職員が冷静、沈着、敏速に1次避難の行動をとり、生命の安全を確保するとともに、被害を最小限にとどめるための訓練を実施し、児童及び教職員の防災意識の高揚を図ることを目的とする。

特に今回の訓練では、クラス単位で活動している授業中等ではなく、様々な活動場所にて活動している状況時において、どのような行動がとれるかを考察できるような場面設定として「〇〇時間」における訓練を実施する。こうした状況下において、児童がどのように行動をとるのか、また、クラスの児童を把握したり、担任がどのように行動したのかについて検証したりするため、児童には、実施時間等を知らせずに訓練を行うこととする。

[2] 日時

平成〇〇年〇月〇日(〇) 雨天の場合は後日検討
[避難訓練] 10:25~11:00 [事後指導] 11:00~11:25

[3] 訓練内容

[想定] 「静岡県で強い揺れの地震」という緊急地震速報を受信したので、緊急に児童を避難させる必要がある。その直後、震度5程度の地震が発生した。

[内容] 児童の安全避難と人数確認、報告

[4] 避難場所・避難経路・避難方法

[避難場所] 校庭

[避難経路] 平成〇〇年度の防災避難訓練の通常避難訓練経路

[避難方法] 1次避難・・・現在いる場所から、安全なところへ移動し、身の安全を確保する。
2次避難・・・1次避難場所から、すみやかに校庭に移動する。

[5] 事前指導

- ① 無予告。前日までに3.11東日本大震災の話学年の実態に応じて行っておく。
- ② 校内の写真をもとに、どこに危険があるのか、危険な場所を想定し、共通理解を図る。

避難上の留意点（日常から継続的に学級での指導の徹底を図ること）

- (1) 第1次行動（揺れがあったら、自分のいた場所に応じてより安全な場所に避難）
※実際に地震発生時、どのような行動をとるか、教師もどのような指示を出すか、訓練を通して確認する)
- (2) 地震発生時には窓やドアを開け、出入り口を確保することが大事。（実際に活動場所で地震が起きたら、揺れが収まったところで、避難する前に可能な範囲でドアや窓を開けて避難することを指導）
- (3) 緊急放送に従い、教師の指示により行動する。（頭を守れ！机の下にもぐれ！その場にすわれ！）
※教師がどのような指示を出しているのか、あとで確認できるようにお互いの行動に注目しておく。
- (4) 地震発生時、教室にいる児童は、机の下に避難し、防災頭巾を着けさせる。（教室にいた教職員はヘルメットを着用、非常持ち出し袋を用意する）
※〇〇時間では、各自の防災頭巾を着用することは困難であるため、特に指示は出さない。しかし、有事においては、自らの後頭部の安全確保を行わなければならないことを事後の指導で各担任から話をしてもらう。

[6] 訓練時の行動

訓練のための訓練ではなく、「いざ」に備えて、

児童も教師も「考えて」行動できる訓練にしよう！

時刻	訓練の流れ	児童の行動	職員の行動	備考
10:25	①緊急地震速報 並びに 地震発生 (一斉放送) 1次避難	<p>※緊急地震速報を放送で流す。揺れの轟音も流す。 (約1分を2回 1回目が終わったら教室等へ向かう) 訓練、訓練。静かに放送を聞きなさい。ただいま大きな地震が発生しました。校舎内にいる児童は近くの教室に入り、机の下にもぐりなさい。体育館の児童は落ちてくるものに気をつけて真ん中に集まりなさい。外にいる児童は建物や遊具から離れて校庭の真ん中に集まりなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 学年担任1名は学年の廊下や教室にいて児童の様子を観察する。(必要に応じて指示を出す) 	<p>(放送から)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計時開始 (担当者名)
10:30	②避難開始 (一斉放送) 2次避難	<ul style="list-style-type: none"> 机の下にもぐる。 廊下の児童は近くの教室へ(業間時) 棚、ロッカー、窓、校舎、遊具などから離れる。 教室避難の場合、防災頭巾をかぶる。 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の児童に避難の指示をする。 自分の安全を確保しつつ、それぞれの担当場所に向かう。 ※担当ごとの詳細は別ページ参照 	
10:40	③避難場所(あおぎり広場)集合	<ul style="list-style-type: none"> 避難経路図に示された隊形で整列し、人数が確認されたら担任の指示で座る。 	<ul style="list-style-type: none"> 揺れがおさまりました。校舎内にいる児童は(防災頭巾などで頭を守り)並んで校庭に避難しなさい。 周囲にいる児童はまとまり並んで避難をする。 避難経路に従って避難を開始する。 校舎内の児童は上履きのまま外に出る。 児童を誘導し、校庭に避難させる。 近くの教室やトイレにも児童がいないか確認する。 近くに防災袋がある場合は持って避難する。 校庭に出たら、自分のクラスの整列場所へ並ぶように指示する。 学級の人数を確認して報告する。担任が探索中の場合は、同学年の教諭が確認・報告する。 	
		担任～学年主任～児童指揮班班長(担当者名)～本部長(校長)		
10:45	④講評	<ul style="list-style-type: none"> 校長先生のお話を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> 探索の有無確認 (担当者名～探索班員) 	<p>(避難完了で)</p> <ul style="list-style-type: none"> 計時終了 避難所要時間を本部長に報告。
10:50	⑤訓練終了	<ul style="list-style-type: none"> 上履きの砂を雑巾で拭きとり、教室へ入る。 防災頭巾を返しに行く。 	<ul style="list-style-type: none"> 校舎内に砂を持ち込まないように指導する。 	
11:00				

[7] 指導者の具体的活動

- 【本部】 ①校庭に本部の標識を掲げ、全体の指揮をとる。
◎校長○教頭 ②避難する児童の状況を確認するとともに、児童の整列指導を補助する。
名前 名前 ③児童の人数確認の報告を受ける。
※担当者名～職員室・放送室・多目的室の児童に避難を呼びかけながら児童と共に校庭に避難する。
- 【避難班】 ①速やかに担当学年の教室へ移動する。
各学年主任 ②各担当学年の教室すべてを確認し、児童に避難を呼びかけるとともに安全な経路を指示しながら、児童とともに校庭に避難する。
③学年の児童の人数を本部へ報告する。
- 【救護班】 ①下記の場所付近の児童に避難を促しながら、児童と共に避難する。
◎名前○名前 担当者名・担当者名・・・ホール周辺・体育館周辺（避難後）
名前 名前 ②避難する児童の安全を確認すると共に、けが人発生に備えて準備する。
- 【消火班】 ①速やかに校庭の避難場所に位置し、避難してきた各担当学年の児童の整列指導を行う。火災が発生する状況が生じたときには、消火活動にあたる。
◎名前○名前
名前、名前
名前、名前、
- 【探索班】 ①速やかに分担場所へ移動し、トイレ、ベランダを含め児童が残留していないように校舎内の最終確認を行う。
◎名前○名前
名前、名前
名前、名前
名前
②最終確認後、探索班は本部前に集合する。全校の人数確認を終えた児童指揮班長より探索班の出動の有無を確認する。
・出動する際は、分担場所を探索し、児童の救出につとめる。
・校舎内の探索結果を児童指揮班長に報告する。
各探索員・・・児童指揮班長（名前）・・・本部長（校長）

<探索班分担>

- 名前・・・低学年校舎1階、トイレを確認し、児童を誘導しながら避難。
名前・・・低学年校舎2階を確認し、給食室横階段を確認し避難。
名前・・・3年教室・3の3横トイレ・3の1前トイレ・音楽室を確認し避難。
名前・・・図書室・職員室・放送室・多目的室を確認し避難。
名前・・・5年教室・3階トイレを確認し避難。
名前・・・家庭科室・理科室・図工室を確認し避難。
名前・・・体育館、ホールを確認し避難。

[8] その他

- ①本部は目印の旗、ハンドマイクを用意する。・・・名前・名前
②避難所要時間を計測し、本部長に報告する。ストップウォッチ用意。・・・名前
③救護班は保健室にいる児童の避難を担当すると共に、医薬品を携帯する。さらに、必要に応じて救急車の出動を要請する。・・・名前
④児童数確認表を用意する。・・・名前
⑤職員は非常用持ち出し袋を携帯し、速やかに児童を誘導する。
⑥避難訓練終了後の上履きの砂をふくために、事前に雑巾を数枚ぬらし、バケツに入れ各学級の下駄箱の上に用意しておく。児童に訓練が悟られないように・・・各担任
⑦講師の先生方に前もって連絡をしておく。・・・名前

[9] 避難経路

平成〇〇年度避難経路図参照

[10] 事後指導

訓練放送終了後、1次避難・2次避難の様子について、児童各自が総括できるようにする。
以下の4つの観点によってふりかえりを行う。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">①どこにいたのか②どういう危険があったのか③どういう行動をとったのか④その行動はどうだったのか |
|--|

必要に応じてワークシートを使用する。

[11] 教師のふり返り

アンケートや情報交換をもとに成果と課題を明確にし、次に活かせるようにする。

マニュアルはあくまでも基本！臨機応変な対応を！
